

欧米のプロ投資家の 集中売り浴びせ

リーマン・ショックから5年以上経過し米国を中心に世界経済も本格的な成長が期待できる段階に入っています。米国は、金融と景気アコ入れを目的に採用してきたドルのばらまき策（量的緩和）とゼロ金利政策を段階的に終了する方向に向かっています。

金は伸び盛りの国や地域に集まるといわれます。経済が成長し所得水準が上がるにしが、金を求める余裕が生まれる人が増えて移動するためです。ドル建て価格で見ても年間28%もの値下がりに見舞われた2013年の金市場で、これまでにない現象が起きました。それは「西から東への金の大規模な移動」でした。売り手と買い手が明確に色分けされた結果もたされたものでした。

場投信)の大量売りで先物市場での投機的売り攻勢で始まった取引は、年央6月末には1200ドル台前半まで水準を切り下げたのでした。

アジアの一般市民の 記録的な現物買い

この大きな下げをきっかけに巻き起こったのが、中国やインドなどを中心とする現物(金地金・金貨・宝飾品)の買いでした。国際

幅売り越しに対し、アジアなど新興国を中心とした金地金の買いが1266ト。かつてない記録的な需要が発生しました。多くが草の根的な一般市民の買いとみられました。なかでも、中国の現物需要は目覚ましく、前年比32%増の1065トに上りました。同じく前年比13%増のインドの需要974トを合わせると、2カ国で2000トを超えることになりました。同年の金の世界生産が3018トですから、その3分の2がこの2カ国で吸収されたことになります。

空飛ぶ 金地金



金融・貴金属アナリスト
マーケット・ストラテジィ・インスティテュート代表

亀井 幸一郎氏

かめい・こういちろう 中央大法卒。山一証券に勤務後、投資顧問会社でFP会社の草分けMMI、ワールド・ゴールド・カウンシル(WGC)を経て独立。2002年から現職。市場分析、執筆や講演など幅広く活動している。

英国からスイス、そして香港へ 西から東へ空輸される金地金

欧米のプロ投資家の売りに対して中国やインドなどの個人の買い。この動きに各国の金輸出入統計から光を当てると、その裏付けとなる動きが現れます。

13年、スイスから香港へ

の金の輸出が前年の151トから933トへと激増しているのです。香港といえは以前からアジアにおける金取引の中心地として知られていますが、近年では中国本土への金現物の経由地として位置づけられています。933トのうちの多くを中国がのみ込んだとみていいでしょう。

一方、スイスには「メタ

1キタといった小型のスマール・バーに再精錬され、中東ドバイや香港に再輸出されています。まさに金地金が西から東に空輸されて(飛んで)いるわけです。

金価格がほしい欧米と 金現物を求めるアジア

こうした流れの核心部分が何かを整理してみると、一昨年末まで買いに回っていた欧米のプロ投資家がほしかったのは「金地金というより」金価格」だったのに対し、アジアの個人はまさに「金そのものを求めている」ということができるでしょう。短期の値上がり目的よりもじっくり型の保有です。これから中間所得

昨今、日本金地金流通協会の会員あるいは会員の関連会社と称して、貴金属地金・コインなどの売買を勧誘する事案が発生しています。また、当協会あるいは当協会会員に類似した名称で、架空の純金積立への加入を持ちかける手口もあります。当協会会員および登録店では、電話や訪問での勧誘は一切行っておりませんので、くれぐれもご注意ください。



急増する詐欺の手口にくれぐれも
ご注意ください

※金のデータはWGC
「Gold Demand Trends
Full year 2013
(2014年2月)」を使用